



ご購入いただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

接続する

ライン入力端子またはスピーカー入力端子をアンプと接続します。(A)

以下の出力端子のあるアンプと接続するときは、ライン入力端子に付属のオーディオ接続コードで接続します。

- MONO OUT 端子
- MIX OUT 端子
- サブウーファー出力端子
- スーパーウーファー出力端子

上記の出力端子のないアンプと接続するときは、スピーカー入力端子とアンプのスピーカー端子をスピーカーコードで接続します。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- 接続にはそれぞれの機器に付属している接続コードをお使いください。接続コードが足りない場合は、別売りのオーディオ接続コードをお買い求めください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。
- 電源コードを接続するときは、壁のコンセントに直接つないでください。
- ドルビープロロジック用のセンター出力端子は使用できません。ドルビープロロジックの使用モードにより、低域が出ない場合があります。

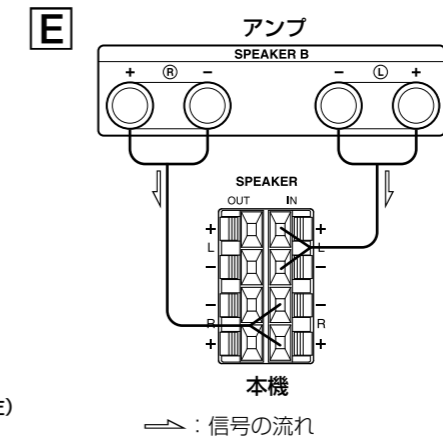
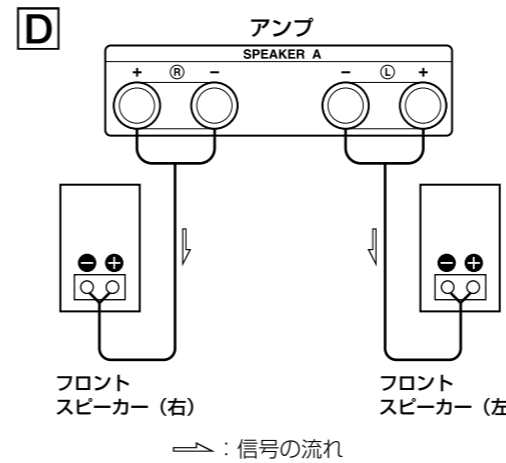
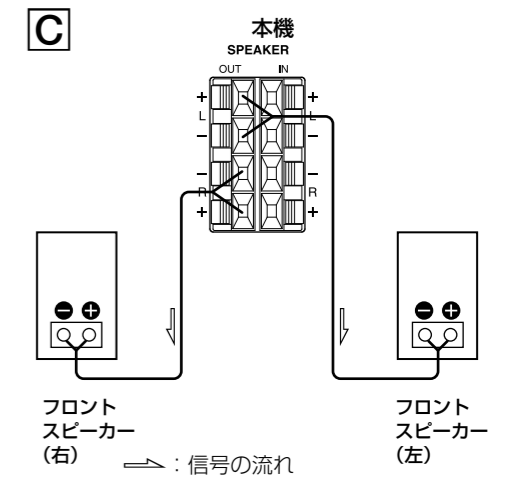
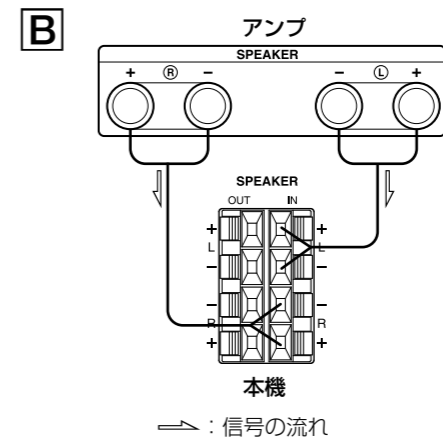
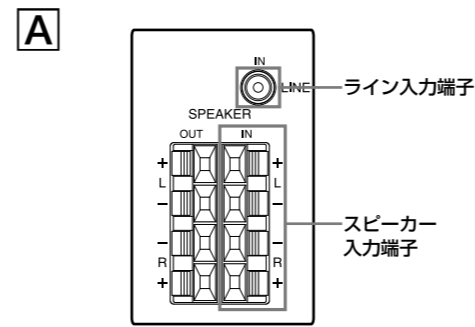
スピーカー端子が 1 組あるアンプと接続する場合

お手持ちのアンプにスピーカー出力端子が 1 組ある場合は、まずアンプと本機を接続し、次に本機とフロントスピーカーを接続します。

- 1 **必要な接続コードを用意する。**
スピーカーコード (別売り)
スピーカーコード両端の被覆を約 15mm はがし、芯線をよじってください。

- 2 **アンプをつなぐ。(B)**
アンプのスピーカー出力端子と本機のスピーカー入力端子をスピーカーコードで接続します。左右両チャンネルとも接続します。

- 3 **フロントスピーカーをつなぐ。(C)**
フロントスピーカーを本機のスピーカー出力端子に接続します。



⇒：信号の流れ

⇒：信号の流れ

スピーカー端子が 2 組あるアンプと接続する場合

お手持ちのアンプにスピーカー出力端子が 2 組 (A+B など) ある場合は、それぞれの端子に本機とフロントスピーカーを接続します。

- 1 **必要な接続コードを用意する。**
スピーカーコード (別売り)
スピーカーコード両端の被覆を約 15mm はがし、芯線をよじってください。

- 2 **アンプとフロントスピーカーをつなぐ。(D)**
アンプのスピーカー出力端子 (A) とフロントスピーカーを接続します。

- 3 **アンプと本機をつなぐ。(E)**
アンプのスピーカー出力端子 (B) と本機のスピーカー入力端子をスピーカーコードで接続します。
使うときは、アンプのスピーカー出力を A + B に合わせてください。

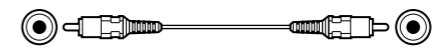
ご注意

スピーカー端子 (A) のみ (フロントスピーカーのみ) を使う場合、または本機と接続するアンプの電源が切れている場合は、本機の音量を下げるか電源を切ってください。ハム音が出る場合があります。

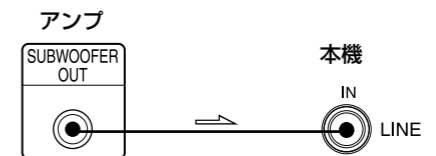
サブウーファー専用端子と接続する場合

お手持ちのアンプにサブウーファー専用端子 (MONO OUT 端子、MIX OUT 端子、サブウーファー端子、スーパーウーファー端子など) があるときは、本機のライン入力端子に接続します。

- 1 **必要な接続コードを用意する。**
オーディオ接続コード (付属)



- 2 **アンプと本機をつなぐ。**
アンプのサブウーファー出力端子と本機のライン入力端子を付属のオーディオ接続コードで接続します。



⇒：信号の流れ

ご注意

アンプの出力レベルが低いと、十分な音量がえられないことがあります。その場合は、アンプのスピーカー端子と本機のスピーカー入力端子を直接つないでください。

電源コードをコンセントにつなぐ

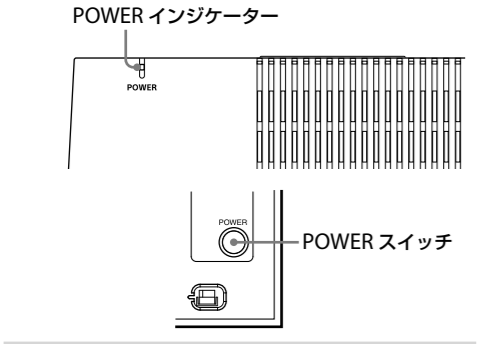
- 電源コードを、壁のコンセントにしっかりと差し込んでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、本機の電源は必ず切ってください。

音を聞く

1 アンプの電源を入れて、聞きたい音源を選ぶ。

2 POWER スイッチを押して本機の電源を入れる。

POWER インジケーターが緑色に点灯します。



3 聞きたい音源の再生を始める。

アンプの音量は、出力がひずまない範囲で調節してください。

接続されるアンプの出力がひずむと本機からの出力も同じようにひずみます。

電源の入 / 切を自動的にする

ー オートパワーオン / オフ機能

本機の電源が入っているとき（POWER インジケーターが緑色に点灯）、信号が入力されない状態が数分間続くと、パワーセーブ状態になります（POWER インジケーターが赤色に点灯）。このとき再び信号が入力されると、本機の電源は自動的に「入」になります。

この機能を使いたくないときは、本機後面のPOWER SAVE スイッチをOFF にしてください。

- アンプのトーンコントロール（BASS、TREBLE など）やイコライザーを大出力でご使用になったり、市販のテストディスクに入っている 20Hz ～ 50Hz のサイン波や特殊な音（電子楽器の低音、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など）を連続して大出力で加えることは、絶対に行なわないでください。スピーカーの破損の原因となることがあります。
- また、低音が異常に強調された特殊ディスクでは、本来の音以外に異音を発する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を超えた「バタ付き」現象です。そのようなときは、音量を下げてください。
- アンプの音量を極端に小さくしていると、オートパワーオン / オフ機能が動き、パワーセーブ状態になることがあります。

音を調節する

お手持ちのフロントスピーカーに合わせてサブウーファーの音を調節することができます。低音を補強することで、音楽や映画に迫力や臨場感が生まれます。

1 カットする周波数を調節する。

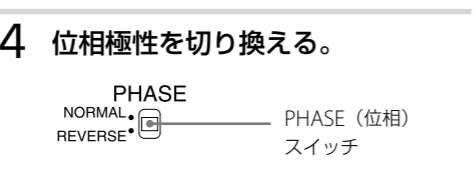
CUT OFF FREQ つまみで調節します。お手持ちのフロントスピーカーの大きさに応じて調節してください。以下の図が目安です。

- ① 超小型スピーカー　直径 4 ～ 5 cm
- ② 小型スピーカー　　直径 6 ～ 8 cm
- ③ 中型スピーカー　　直径 9 ～ 15 cm
- ④ 大型スピーカー　　直径 16 ～ 24 cm
- ⑤ 超大型スピーカー　直径 25 cm 以上



2 ウーファーの音量を調節する。

3 いつも聞いているお好みの曲や映画を再生する。



LEVEL つまみで調節します。つまみを徐々に右に回し、サブウーファーがないときより、若干低音が聞こえるくらいに合わせます。

つまみを右に回す（MAX 側）と音量が大きくなり、左に回す（MIN 側）と小さくなります。

LEVEL つまみで調節します。つまみを徐々に右に回し、サブウーファーがないときより、若干低音が聞こえるくらいに合わせます。

つまみを右に回す（MAX 側）と音量が大きくなり、左に回す（MIN 側）と小さくなります。

LEVEL つまみで調節します。つまみを徐々に右に回し、サブウーファーがないときより、若干低音が聞こえるくらいに合わせます。

5 手順 1 ～ 4 を繰り返す。

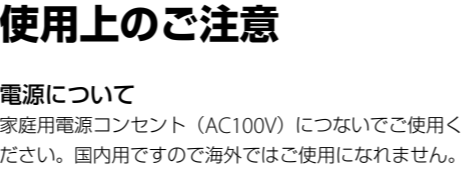
お好みに応じて微調節してください。一度調節すれば、ウーファーの音量は、アンプの音量つまみと連動してコントロールされます。アンプの音量に合わせて再度調節する必要はありません。

ご注意

●本機と組み合わせたアンプの低音調節機能（DBFB、GROOVE、グラフィックイコライザーなど）をON にすると、音が歪むことがあります。その場合はDBFB など切って音を調節してください。

●フロントスピーカーの種類や本機の設置場所、CUT OFF FREQ つまみの位置によっては、PHASE スイッチで「NORMAL」または「REVERSE」を選んだ方が低音再生が良好になる場合があります。また低音だけでなく、全帯域にわたって音の広がりや印象が変化し、音場感に影響します。お好みに応じて切り換えてください。

スピーカーの設置



電源について

家庭用電源コンセント（AC100V）につないでご使用ください。国内用ですので海外ではご使用になれません。

電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものをのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。また、電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードをコンセントから抜く場合

電源コードをコンセントから抜くときはスイッチをOFF にしてから抜いてください。

アンプやプログラムソースの電源の ON/OFF、スイッチの切り換え時には

アンプの音量を最小にしてください。

留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

●大きな音を出しすぎると、音質を損ねたり、スピーカーが破損する恐れがありますので、LEVEL（音量）つまみの位置にご注意ください。

●スピーカーユニット、エンクロージャーは分解したり改造したりしないでください。

設置について

人間の耳では、本機で再生される音（200Hz 以下の低音域）がどこから聞こえてくるのか、その方向を感じできません。したがって、本機をお好きな場所に設置してお使いいただけます。しっかりした床面に設置すると不要な共振などが発生せず、よりよい重低音再生をお楽しみいただけます。

また、本機 1 台でも十分な重低音再生をお楽しみいただけますが、2 台以上お使いいただくと、より効果的な重低音再生をお楽しみいただけます。

- 本機は壁から 5cm 以上離してください。
- 本機の上に物をのせたり、腰掛けたりしないでください。
- 部屋の中央付近に本機を設置すると、重低域が極端に減少する場合があります。これは部屋の定在波の影響によるものです。このため、部屋の中央付近への設置を避けるか、定在波が起きにくいように本棚などを置いて部屋の平行面をなくすことをおすすめします。
- 本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。



- テレビなどの映像機器に接続されたコードを束ねたり折りたたんだ状態で本機の後面に配置しないでください。映像にノイズが出る場合があります。

設置場所について

- 次のような場所には置かないでください
 - 温度の高いところ、直射日光の当たるところ
 - ほこりの多いところ
 - 湿気の多いところ
 - キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類のそば
 - スピーカー部のマグネットの磁気の影響でカードが使えなくなることがあります。
 - テレビのそば
 - スピーカーは防磁型ではありません。そのため、ブラウン管方式のテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。色むらが起きた時は、いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30 分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。
 - 振動がプレーヤーに伝わるところ（ハウリング防止のため）
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くと、床に変色、染みなどが残ることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

柔らかい布を水で湿らせ、固くしぼってからふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

万一、異常や不具合が起きたときは以下の項目をお確かめください。それでも解決しない場合は、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。

なお、保証書とアフターサービスについては、「保証書とアフターサービス」をご参照ください。

POWER インジケーターが赤色に点灯する

- 本機の電源が入っているとき、信号が入力されない状態が数分間続くと、パワーセーブ状態になります（POWER インジケーターが赤色に点灯）。この機能を使いたくないときは、本機後面のPOWER SAVE スイッチをOFF にしてください。

オートパワーオン機能が働かない（音声入力しても電源が入らない）

- 極端に小さな音で聞く場合、オートパワーオン機能が働かないことがあります。オートパワーオン / オフ機能を使いたくないときは、本機後面のPOWER SAVE スイッチをOFF にし、POWER スイッチを押し電源を入れてください。

音が出ない

- 接続コードのプラグをしっかりと差し込む。
- LEVEL つまみがMIN に近くなっているので、右へ回して音量をあげる。
- LEVEL つまみを調整する。

急に音が出なくなった

- スピーカーコードがショートしているので確実に接続されているか確認する。

音がひずむ

- 入力信号が適正でない。
- 入力信号が大きすぎる。
- ドルビーデジタルを再生するときは、カットする周波数できるだけ高く設定する。

ハム音や雑音が出る

- レコードプレーヤーのアース線をしっかりと接続する。
- オーディオおよびスピーカー接続コードと端子の接続が不充分なので、充分に差し込む。
- テレビからの雑音を拾っているので、テレビとオーディオ機器とを充分に離すか、テレビの電源をOFF にする。

<div>システム</div> <div>形式</div> <div>使用スピーカー</div> <div>実用最大出力（JEITA*）</div>	<div>アクティブサブウーファー</div> <div>25 cm コーン型ウーファー</div> <div>115 W</div> <div>28 Hz ～ 200 Hz</div>
<div>再生周波数帯域</div> <div>ハイカット周波数</div> <div>フェーズ切り換え</div>	<div>50 Hz ～ 200 Hz</div> <div>NORMAL、REVERSE</div>
<div>入力端子</div> <div>ライン</div> <div>スピーカー</div>	<div>ライン入力（ピンジャック）</div> <div>スピーカー入力（ターミナル）</div>
<div>出力端子</div> <div>スピーカー</div>	<div>スピーカー出力（ターミナル）</div>
<div>電源、その他</div> <div>電源</div> <div>消費電力</div>	<div>AC 100 V、50/60 Hz</div> <div>70 W</div> <div>スタンバイモード時：0.5 W</div> <div>約 295 × 345 × 400 mm</div> <div>（幅 / 高さ / 奥行き）</div>
<div>最大外形寸法</div>	

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

使い方相談窓口	http://www.sony.jp/support/
フリーダイヤル……………	0120-333-020
携帯電話・PHS…一部のIP電話…	050-3754-9577
修理相談窓口	
フリーダイヤル……………	0120-222-330
携帯電話・PHS…一部のIP電話…	050-3754-9599
*取扱説明書/リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。	
FAX（共通）0120-333-389	

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に**「306」+「#」**を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

質量	11.5 kg
付属品	フットパッド（4） <p>オーディオ接続コード（1）</p> <p>取扱説明書（1）</p> <p>安全のために（1）</p> <p>保証書</p>

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が、添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または下記の修理相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではスピーカーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- **型名**：SA-CS9
- **故障の状態**：できるだけ詳しく
- **購入年月日**：

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。	http://www.sony.jp/support/
使い方相談窓口	
フリーダイヤル……………	0120-333-020
携帯電話・PHS…一部のIP電話…	050-3754-9577
修理相談窓口	
フリーダイヤル……………	0120-222-330
携帯電話・PHS…一部のIP電話…	050-3754-9599
*取扱説明書/リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。	
FAX（共通）0120-333-389	
左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に 「306」+「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。	